

浜松観光ボランティアガイドの会

「新人養成講座・現地研修」(家康の散歩道前半)

4月25日(月)24期15名と23期1名の参加で家康の散歩道前半の「城内・城下ルート」が研修部主催で実施されました。朝9時に浜松城公園のせせらぎの池前から3グループに分かれ出発しました。以前の散歩道より5カ所増えて距離が6km超とこれまでの研修の中で本日が一番ハードで、ガイドって結構体力が必要と感じた受講生も多かったのではないのでしょうか。

元城町東照宮→椿姫観音→浜松城の鬼門にあたる浜松八幡宮→浜松で出生した2代将軍徳川秀忠公誕生の井戸→家康公在城の頃に遷座した遠江分器稻荷神社までで約1時間経過しました。分器には計量の分器と分岐点の説があり、中世曳馬宿の南限にあたり経済の中心として賑わっていたようです。

そして少しの休憩をはさみ約1,100m先の松尾(まつのお)神社→鍛冶町の氏神として信仰のある金山神社→秀忠公の産土神の五社神社・諏訪神社。当神社は「お江戸見たくば五社諏訪ごろじ お江戸まさりの五社や諏訪」と謡われ戦前まで国宝の社殿がありましたが、残念ながら戦争で焼失してしまいました。境内には6代藩主高力忠房が寄進した手水鉢、賀茂真淵の師である森暉昌の顕彰文を書いた光海霊神碑(うなてりのみたまのひ)、見事な方形石垣等見どころが多い。それから700m離れた裏鬼門の守りの秋葉神社へと歩を進めました。そして浜松城出丸跡を確認し鎧掛けの松でゴールとなりました。時計を見ると午後をだいぶ過ぎており、受講生の皆さんや研修部の皆さんお疲れさまでした。



五社神社・諏訪神社にて

広報部 柳本幸子 (中ブロック)

「新人養成講座・現地研修」(家康の散歩道後半)

5月16日(月)小雨の中、24期15名、23期1名の参加で家康の散歩道後半の「合戦ルート」が研修部主催で実施されました。市役所前から出発し、馬冷しを經由して広沢へ。普濟寺では、総門、初代竹沢仲造の碑、山門(赤門)、卵型の石塔婆の法皇廟、北山稻荷等を見学しました。西来院では、築山御前廟、松平康俊墓碑、水野家家老二墓、林家墓等を参拝、その後、広大な敷地の宗源院では三方ヶ原合戦で旗持ちとなり戦死した西尾城主成瀬藤蔵正義墓、同合戦戦死の外山小作・遠藤右近墓、小笠原源太夫夫妻墓、笠付き墓碑の多世姫(大河内・松平信祝の不運早逝の息女)墓の前では河内桃子の話題もでて時代の共有に笑いが起こりました。

西部協働センターで休憩をとり、高柳健次郎氏が世界で初めてブラウン管による「イ」の字の電子表示に成功した記念碑を研修。市立高校では、なぜかそわそわしつつ小説『四季と子供』『娘と時代』等を著した鷹野つぎの碑を見学し戦前の浜松について学びました。次に夏目吉信の碑を研修し、「命を捧げるほどの上司とは」などを考えながら、奥山線線路址を辿ってせせらぎの池まで戻り、健康チェック・次回研修の連絡を受けて12時前に解散となりました。参加者にとっては、歩いてみて初めて発見することの多さ、一石五輪塔など多くの墓石から感じる長い歴史への感慨、また若かりし頃の浜松を脳裏に浮かべ、味わいながら学んだ研修となったようです。



西来院の築山御前廟前にて

広報部 前原福子 (西ブロック)

浜松まつり 館内ガイドで協力



凧糸製造室の前で

糸の説明に関心を持たれるお客様が多いように見受けられました。

今年度の御殿屋台は町内引き回しだけでしたが、浜松市制 80 周年記念で作成された豪華な浜松の御殿屋台展示やビデオを見て「来年こそは練りに参加して日本文化を学びたい」という熱心な留学生の声も聞かれました。

凧揚げ体験ブースで塗り絵をした凧をご持参の姉妹はこれからまつり会館広場で凧を揚げにいくと話してくださいました。

うまく揚がったでしょうか？外に出てみるとカラフルな 2 機のパラグライダーがゆったりと砂丘方面で泳いでいました。規制緩和された浜松まつりを皆様それぞれの形で楽しまれているようでした。

浜松まつりが、条件付きで 5 月 3 日(火)より 3 日間開催されました。今年の凧揚げは人数限定で観客席が設けられ 168 町が参加。毎日午前 10 時の花火の合図で一斉にスタート。お天気にも恵まれ 5 月 5 日の子供の日には子供だけによる凧揚げも元気いっぱい執り行われました。

当会は、シャトルバスの発着所ともなる浜松まつり会館にて連日 4 名体制で来館者に館内ガイドを実施。糸切り合戦は今年も禁止となりましたが、合戦に対応した特殊な凧



塗り絵した凧を持ってご来館

広報部 金原里枝 (南ブロック)

「新人養成講座・現地研修」(浜松駅周辺)

5 月 30 日(月)初夏の日差しの中、研修部主催で浜松駅周辺の現地研修が行われました。24 期 12 名、23 期 1 名、研修部他 10 名の参加者が 2 班に分かれ、9 時に浜松駅南口から出発。浜松観光インフォメーションセンターの杉田さんから励ましのお言葉をいただき、駅周辺の飲食店、レンタカー、歯科医院等を確認、駅構内と地下の 5 カ所のコインロッカー、公衆電話(国内・国際)、多目的トイレ、ATM、JR 遺失物取扱所、薬局等々の所在を確認しました。駅周辺の施設として、バンビ乗場(休止中)の脇を西へ向かい JRA 場外馬券売り場、ザザシティ浜松中央館へと進みました。リニューアル後の浜松こども館は設備が良くて安心して子供達を遊ばせられると参加者の声がありました。鍛冶町通りに出て、20 余年未だ空き地となっている松菱跡地には、ため息をつくばかり。気を取り直して遠鉄百貨店 9 階にて東側の展望を眺めて一息入れました。



ショパンの丘で記念撮影

百貨店前にある戦火を生き抜いたプラタナスの木を愛で、バスターミナルで 1 番から 16 番乗場を確認、続いてアクトシティ屋上のショパンの丘へ。らせん階段→音楽広場→太陽の広場迄の往復 1.7 km は「アクトの森」として楽しめるウォーキングルートになっています。動く歩道に乗って浜松科学館みらいーら、世界中の楽器約 1,300 点を展示してある、日本で唯一公立の浜松市楽器博物館へと進みました。駅北口東側交差点付近に設置された太陽光採光システムひまわり、そして浜松城迄 108 本ある羊歯具足電柱の起点を確認しました。駅北口正面にそびえ立つ 3 棟のタワーマンションを見上げて、浜松の街の変化を目の当たりにした思いです。

最後に、古山研修部長から参加者の体調チェックがあり、現地研修最終回であること、質問事項は各ブロックにて対応するなどが告げられ 11 時半に現地解散となりました。今回は 67 カ所を見聞しましたが、誌面都合上、取材記事を割愛させて頂きました。研修部から配布された資料を基に、各自のペースで再度歩いてみましょう。



太陽光採光システム
「ひまわり」の前で

広報部 藤田礼子 (中ブロック)

新入会員の入会動機



私が今回入会しましたのは、協働センターの学習会の「英語で脳トレ」、「やさしい英単語でクロスワードパズルを解く」等の講師の先生より募集チラシをいただいた事がきっかけでした。今迄「富士山の日記念ウォーク」やウォーキングの会で当時の会員だった大村前会長の企画で浜松市内を東西南北に巡るウォーキングに参加したことも入会のきっかけだったかもしれません。皆さん、歴史や地理に詳しい人が多く勉強会等楽しみにしています。この歳になって思いきって新しい人達との一期一会に不安も一杯ですが、どうかよろしく願いいたします。

北ブロック 内山昌久



10年ほど前に定年退職後、専門知識を生かして、個人事業主として起業しましたが、当初は仕事がなく暇を持て余していた時、学生時代の友人と共に数日間かけて三浦半島を旅行いたしました。その際に、現地のボランティア活動の方が三浦半島の歴史や風土などを説明していただき、私もいつかは同様なことをやってみようかと考えました。残りの人生を考えたときに、元気でいられる時間が残り少なくなってきたり、仕事オンリーではなく、興味のある戦国時代のことを勉強して得られた知識を元にして、生まれ育った浜松に少しでも恩返していこうという気になりました。チラシで観光ボランティアのことを知り、思い切って応募することにしました。深い知識があるわけではなく、また、仕事を抱えながらのため、どの程度やれるかは非常に不安ではありますが、諸先輩方のご指導を受けて早く一人立ち出来るように頑張っていきたいと思っております。

南ブロック 細井良恭



観光ボランティアガイドには、以前より興味をもっていました。仕事を退職する機会に応募しようと思っておりましたが、コロナの影響で少々遅れてしまいました。私は旅行が好きで旅先でガイドさんから説明の機会があれば積極的に参加していました。最近、年齢のせいかな案内板に書かれているものを読むのが苦手になっていることもありましたが、何より地元の人からその土地・人物等の話を聞くことは興味深くその土地がより深く心に残りました。果たして自分がどこまでできるか不安ですが、来てくださった方に浜松を少しでも好きになってもらえるよう知識を深め人との触れ合いを楽しんでいきたいと思っています。

南ブロック 細井とも子



10年近く前の夏休み、夫婦で仙台に行った時の事です。雨の朝、伊達政宗の霊屋、瑞宝殿を観に行きました。車を降り、坂を上って行くと、年配の方が「見学ですか。よかったら説明します」と声をかけてきました。妻が「お願いします」と応え、3人で傘をさし瑞宝殿に向かいました。道々、瑞宝殿の歴史や日光東照宮との関係などパンフレットには載っていないことも説明していただきました。興味が湧き、いろいろ質問しましたが、傘を差しながらも丁寧に答えていただきました。当初所要時間30分の予定が、1時間以上になってしまい次の目的地、大崎八幡宮には行けなくなってしまいました。でも、それを上回る満足を得ました。これが観光ボランティアガイドを意識した始まりです。5泊6日の旅でしたが、その時の事はよく覚えています。この4月から、時間の余裕ができるので、見学に来る方にそんな経験をさせてあげたいと思っております。

北ブロック 渥美明



来年、NHKで家康の大河ドラマが予定されています。大変歴史に興味があり特に地元にも在住していた武士でもあり身近に感じました。もともと歴史ドラマで文献には興味があり旅行にて施設めぐりをしたり古文書の講習会、刀剣等の美術工芸の美術鑑賞なども興味があり、積極的に参加したり見学したりして楽しんでいます。

浜松市に長年過ごしているながら浜松市の歴史文化についても一般的な知識はあるけれども、もう少し掘り下げて勉強して少しでもボランティア活動を通じて観光案内等の行動を体験経験することによって一層浜松の文化歴史を知ることが出来ると思って参加した次第です。私は、常に前向きでどちらかというとポジティブな性格です。

中ブロック 伊藤彰彦

会員の交流広場

家康公兜前立勝軍地蔵尊と冑仏

犀ヶ崖資料館の展示品に6cm程の家康公兜前立勝軍地蔵尊があります。当勝軍地蔵尊は且つて磐田見付・安間家に家康公から恩賞として賜ったもので家宝として伝わったものでした。明治25～26年に宗円堂が再建された時に御本尊としてお迎えしたと伝わります。

犀ヶ崖資料館当番の時お客さんに勝軍地蔵尊の説明をする時は「これは、鎌倉時代から戦国時代に武士の間に流行したもので仏像に勝利を願ひその小さな地蔵を兜(かぶと)に入れ出陣したものです」と説明して来ました。しかし、お客さんから「兜のどの辺に入れるの?」と突っ込まれました。エッ!「兜の中にスペースがありそこに入れるみたいですよ!」と答えてきました。その後、この事について色々調べてみたが分からずにいました。解決は意外な所からやって来た。それは大河ドラマ「鎌倉殿の13人」のある場面。源頼朝が石橋山の戦いで敗れて身を潜めた洞窟で髻(もとどり)から観音像を取り出し洞窟に置いて行くと言う場面です。



家康公勝軍地蔵尊

それを後押しするように静岡新聞2月10日付けの“大自在”に「冑仏(かぶとぼとけ)」を研究して30年になる島田市・河村隆夫さんの論文についての記事を目にしました。それによると河村さんは自宅仏壇に安置されていた3cm程の大日如来像に惹かれ、武将が兜の中に入れて戦った「冑仏」を研究して30年になるそうですが、当初、あちらこちらに問い合わせても空振りの連続だったというのです。

その後、鎌倉幕府の公式歴史文書「吾妻鏡」の記述に辿り着いたようです。しかし、この記述は伝説とまで言われてきました。だが、大河ドラマでその場面が日の目を見たのでした。洞窟に潜んでいた頼朝が髻から仏像を取り出した場面が放映されたのです。さぞかし河村さんは喜んだ事に違いありません。(静岡新聞“大自在”参考。なお、髻とは髪を頭の頂に束ねたところ。また、その髪の色意。)

これで犀ヶ崖資料館の家康公勝軍地蔵尊の説明に自信を持って言えるのではないのでしょうか。因みに、頼朝が身を隠した「しとどの窟(いわや)」は、同一名が二ヶ所(神奈川県・真鶴町と湯河原町の洞窟)あり、どちらかは不明。過去この洞窟について大論争が巻き起こったそうですが、頼朝は逃げ回っていてどちらの洞窟にも入ったと言う事に現在は決着をみたとの事です。

北ブロック 松本初義

5月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

| 複数回来場のあった団体 | | | |
|-------------|-----------------|----|-----|
| * | | 回数 | 人数 |
| | 阪急交通社 | 2回 | 36名 |
| 16日 | 月 ユーラシア旅行社 | | 12名 |
| 20日 | 金 島田樟誠高等学校 | | 37名 |
| 24日 | 火 静岡ガストロノミー | | 17名 |
| 26日 | 木 松江市営バス友の会 | | 17名 |
| 28日 | 土 静岡の歴史をつなぎ楽しむ会 | | 33名 |

《犀ヶ崖資料館》

28日 土 静岡の歴史をつなぎ楽しむ会 33名

《浜松まつり会館》

19日 木 清水町立清水中学校 106名
21日 土 浜松ゆうゆうの会 18名
26日 木 淡交会(関東方面のお客様) 22名

はままつ案内人会報 239号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地